

くらしの足をみんなで考える

～交通事業者も、研究者も自治体も、市民も～

くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 事務局長
認定NPO法人 かながわ福祉移動サービスネットワーク 理事長

清水 弘子

自己紹介

- 2000年 高齢者・障がい児者の外出支援活動を地域の仲間と始める
地域の中には公共交通での外出がしにくい人が多いことを強く感じる。
同時期、住民主体で地域バスを走らせようというグループと出会い、参加する。
- 2003年 かながわ福祉移動サービスネットワークの設立に関わり、2008年より理事長。
- 2007年 神奈川県との協働事業として、交通不便地域における住民主体の地域交通づくりを伴走支援する事業に取り組む
- 2012年 暮らしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会の発足に関わり、2017年より事務局長。(実行委員長・岡村敏之 東洋大教授)
- 2016年 福祉ニーズに応えるタクシー(現・かれんタクシー)、神奈川運輸支局、県タクシー協会の協力で事業開始
- その他 2011年4月 関東運輸局「地域公共交通マイスター」を拝命、横浜市交通政策推進協議会委員(2012年)、タクシー協会主催のユニバーサルドライバー養成講座の講師として協力
- 2020年12月 関東運輸局地域公共交通優良団体等表彰(かれんタクシー事業)を受ける
<http://www.kanagawa-ido.net/>

原点は移動サービス 【MustとWantの需要に応えたい】

- 歩行の見守り、乗降の介助、付き添い、お買い物やお楽しみのおでかけもお手伝いします。



●通院の付き添い・買い物

- ・認知症の方、家族に代わって付き添い、通院介助
- ・病院での待ち時間にはお話し相手
- ・品物を自分の目で見て選ぶ

- 知らず知らずあきらめていたことが、たくさんある



● 学校送迎や、仕事場(作業所など)への送迎

「送り迎えは親の責任」時代から、「たすけあう社会」へ。

●学校や仕事場への送迎

- ・家族に代わって、朝夕学校の送迎バスポイントまで送る

●こんなこともあります

- ・家からなかなか出られない・車から降りても動かない



原点は移動サービス

重度の障がいのある方や介護度の高い方も

● 見守りから、重度の介助まで対応

- 車イスの人も福祉車両でお出かけ！
障がいや体力の低下などで、歩行が辛い、
車イスのまま乗車し「ふつうに」お買い物も。
- お出かけ先で付き添うこと、トイレ介助や食事介助も
必要に応じて行うこともあります。



● お花見、初詣、レストラン、「お出かけ」は人を元気にします



- お出かけの日は笑顔、それが私たちのやりがいに繋がっている

2006年、道路運送法に「自家用有償旅客運送」として位置付けられた。対象者の要件は＜介護保険制度の認定者、障がい者手帳所持者＞など

地域のたすけあい活動へ参加 ～制度の枠組みだけでは「足りない」～

介護保険の認定ではないが
買い物に行きづらいひと

急坂のある町、
引きこもりがちになった人

商店の閉店で、
歩いて行ける場所
にお店がなくなった地域

これからは「地域格差の時代」

自治体の動きを待つて動かない地域は停滞し、
住民が自ら必要なサービスをつくる地域は
豊かになる

勉強会で聞いた
こんな言葉が
背中を押した



住民が主体
地域のチカラで
何とかしたい！

制度だけでは
必要な支援は
つukれない



地域のたすけあい活動の創出支援

- 2007年 神奈川県との協働事業で
「住民がつくる地域交通づくり・まちづくり」の伴走支援に取り組む
- 現在では、県内で約40のグループが活動し、その支援(研修や学習会など)を行う
- また、綾瀬市、相模原市、海老名市の事業を受託し、活動団体を創出している

*一度外出をあきらめて引きこもると、信頼できる人の声かけがないと出かけられない。だから、「地域のチカラ」が必要です



ワークショップ風景



運行開始

かながわ福祉移動サービスネットワーク

2003年に発足、外出支援を広げるため、研修事業や、団体の立ち上げ支援を始める

その後、たすけあいの交通づくりに取り組み、共同配車センターを目指してタクシー事業者との勉強会も実施してきた

くらしの足をみんなで考える全国フォーラム

学びの場

- 2012年 第1回開催

当事者、行政、研究者、バス・タクシー事業者、福祉・介護・医療従事者、NPOなどが集まって、地域を越え、立場を越え、利用者・生活者の目線で本音を語りあい、それぞれの抱える課題解決のヒントを得る「気づき」の場です。

- NPOの活動だけで、地域の多くの移動困難の課題を解決できるはずがない(提供できるサービス量が全く違う)、「お客の取り合い」ではなく、互いの理解と様々な連携が必要、と感じて参加、
- 2017年より事務局長



タクシーとの連携 かれんタクシー

障がいがあっても「付き添いなしで乗る」タクシー

穏やかな方なら、一人でタクシーに乗れる！
福祉有償運送では当たり前の一人乗車、
タクシーもできるよ！



神奈川運輸支局長(当時)の後押しとタクシー協会横浜支部の協力で実現、現在登録者106名(知的・身体障がい)

▲知的障がい・友達と放課後等児童デイへ
JAPANTAXIに乗って出発▼



◀2018UDタクシー乗車体験会 神奈川運輸支局
ウチの子の大型バギーはUDタクシーに乗れるの？
2023, 2024はコロナ明けで久々に実施できた



くらしの足を守るために

ご清聴
ありがとう
ございました

- 原点は移動サービス
困っている人の課題を正面から見つめ、解決策を見つきたい。。。
- 地域の人が自分事と思って、地域の移動課題に取り組んだら。。。
- 神奈川県の人人口約900万人、移動困難者は推計で約90万人にも及ぶ
→輸送のプロが取り組んでくれないと、解決しない
→だから、タクシーを応援する
- 解決のためには、もっと、いろんな方法があるはず
→くらしの足をみんなで考える全国フォーラムは、出会いと学びの場

だけど、地域の人だからこそできることがあるはず
顔の見える関係、古くからの知人・友人、地域の信頼、
だから、移動サービスも、地域のたすけあい活動も大切です！